一人ひとりの想いつたえたい ➤➤➤ あなたの声でつくる情報誌

NO.53
2004・冬号

まなこ

企画・発行　武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当

●「つたえる・つたわる・つたえあう」●

取　材	「祖父から父、そして息子へ」	前進座 河原崎 國太郎 さん
	「つたえたいものは、文化、その形、道具……」	平井 安子 さん
寄　稿	自分史を書く……はじめの一歩	武蔵野市ライター入門講座講師 西村良平 さん
情　報	知っていますか？「任意後見制度」	弁護士 中山二基子 さん
	「あえてお世話をしよう」	日本ガーディアン・エンジェルス 浅田 淳 さん
レポーター体験記	「舞台は伝え合い」	古橋 哲 さん
	挑戦！自分のこと、書いてみよう	曽我部一美 さん
	限りなく「終わり方」を平等に近づける任意後見制度	高野 良美 さん

53号 つたえる・つたわる・つたえあう

あなたの想い、一方通行になっていませんか？
家族や地域、未来に伝えたいことはありますか？

祖父から父、そして息子へ

前進座　河原崎（かわらさき） 國太郎さん（1962年生）吉祥寺南町

歌舞伎界の古い体質から抜け出し、新しい演劇を目指して設立された前進座も今年で、73周年を迎える。

同じ街に住み、同じ街の舞台に立つ。演劇を育て、座員とその家族を育ててきた前進座の存在は、吉祥寺の街にしっかりと根を下ろしている。

「天平の甍（いらか）」の中国公演から帰国したばかり、またすぐに「三人吉三巴白浪（さんにんきちさともえのしらなみ）」の地方公演に旅立つという慌しいスケジュールの中、「ご近所同士ですから」と気さくに取材に応じてくれた國太郎さん。六代目河原崎國太郎を襲名し、祖父、父と続く女形の芸に磨きをかける吉祥寺生まれ、吉祥寺育ちの大スターだ。

初舞台は5歳のとき。毎日がお稽古三昧だった。三小から三中に進み、「部活で野球をやりたいと言ったら、祖父にひどく反対されましてね。女形の芸に障るからと」

今、5年生になる長男が同じ道を歩み始めている。「普段はお友だちと元気に遊び回っていますが、土曜日の日本舞踊のお稽古のときにはシャキッとするんですよ」と目を細める。踊りの師匠は、おばあちゃん、國太郎さんのおかあさんだが、一つだけ國太郎さん自身が厳しく伝えていることがある「鼻濁音の発音だけは、その都度なおすようにしています。僕ガ・じゃなくて、僕が・でしょというようにね」

夫人も、同じ前進座の舞台に立つ小林祥（さち）子さん。「家庭ではお互いの芝居の話はしません。喧嘩になっちゃうから」夫婦で同時に吉祥寺を離れることがないように、スケジュールには気を使っている。「女優さんは子どもができるとどうしても家庭に比重がかかる。女優ひとすじという訳にはいきませんよね」何か月にも及ぶ地方公演、その合間を縫っての一日がかりの通し稽古。言い回しは穏やかだが、その言葉からは、上っ面だけの家庭と仕事の両立などという安易な常套句を受け付けない舞台人の厳しさが垣間見えた。

二〇〇四年申年の新春、國太郎さんは京都の南座、小林祥子さんは、吉祥寺の前進座劇場の舞台に立っている。

（文　森　治美）

「三人吉三巴白浪」の舞台から

▼劇団　前進座

問い合わせ

〒180－8570
武蔵野市吉祥寺南町3-13-2
TEL 0422（49）2811
URL http://www.zenshinza.com/

つたえたいものは、文化、その形、道具……

ブラショフから来たダニエラさんと

平井 安子 さん　吉祥寺南町

ルーマニアを始め、さまざまな国の若者のホストファミリーを10年余り務める平井安子さん。家族の一員として接し、自分たちの仕事や生活をあまり犠牲にはしない。寝具は布団、朝食は箸を使っての和食。息子たちは、食卓にある増えた茶碗を見て「今度はどこの国の人？」家族以外のしかも外国の人が突然一緒に食事をすることにも抵抗はない。夫はスペイン語やドイツ語の通訳を進んでしてくれる。話せない言葉の国の人には、挨拶だけでも彼らの母国語でする。心からのもてなしだ。

彼らと過ごすと国民性の違いに気付くこともある。「自立心」はおおいに感じる。今の日本人は自分も含めて我が子に過保護だと思う。以前、13歳の少女がルーマニアのブラショフから日本にやってきた。両親からは電話もかからなかった。彼らは探究心が旺盛で行きたいところを探し、自分で行こうとする。

平井さんが所属している国際交流団体の一つ「武蔵野ブラショフ市民の会」では、さまざまな日本の文化に触れてもらう。茶・華道や書道など、皆熱心に参加する。そして、身に付ける。

今、ブラショフ市には、着物の着付けや生け花、合気道や水墨画を教えている人がいる。日本で習得したものを遠い国で伝えている。

「時々墨汁を送ります。墨をするところから始められないのが残念ですが」日本の文化。その形、道具、何よりも心を伝えたい。

生活習慣も文化も違う国の人々との交流を通して彼らから学び、彼らに教える活動をこれからも続けていきたいと楽しそうに語ってくれた。

（文　尾花雅子）

武蔵野ブラショフ市民の会：ルーマニア・ブラショフの市民との文化交流を進め、その一環として研修生を招へいしている団体

前進座の地元・吉祥寺南町に住む同年代のレポーターが訪ねました

●取材体験記

「舞台は伝え合い」　まなこレポーター　古橋　哲（さとし）

舞台俳優の方に直接お話を伺う経験は生まれて初めてでしたが、お目にかかった瞬間、「人々の視線を一身に集め、注目を浴びることを生業としている方」のオーラを強く感じました。決して威圧感はないのですが、キリッと目を見開き、素人の私の問いかけにも、女形の俳優さんらしくたおやかな、そして柔らかい物腰で丁寧に答えてくださいました。

身振り手振りを交えて語る國太郎さん。お話で特に印象に残った点が二つあります。一つは、女形を演じるからと言って、ご自分をある時点から女性に変身させて演じ分けるような意識は特にされていないということでした。俳優さんによっては、ある瞬間から「女形モード」のスイッチをＯＮにさせるタイプの方もいるようですが、國太郎さんの場合は舞台へと歩を進めるに連れて、そのまま自然に女性に成りきれるそうです。

もう一つは観客席との「心と心のキャッチボール」とでも申しましょうか……お客さんの反応や息づかいを常に意識して、同じ演目でもその場の雰囲気で演じ方を変えているとのこと。舞台は必ずしも俳優が一方的に伝えるものではなく、観客との間で伝え合うものなのだということを、教えていただきました。

また、演技がどのように伝わっているか、「自己を客観的に見つめる目」も養うように心がけているとおっしゃる國太郎さん。そのたゆまぬ努力に、感銘を受けました。

お稽古後のひとときにお時間をいただきました

「つたわる」自分史を書くために

自分史がブームだと言われます。30代40代でも書く人がいるのは、自分を伝えたいと同時に、自分の生き方を再確認したい想いからでしょうか。
西村良平先生に、初めて自分史を書くときのコツやアドバイスを伺い、レポーター曽我部一美（かずみ）さんが挑戦してみました。　（構成　加藤和子）

自分史を書く……はじめの一歩

文　西村良平（武蔵野市「ライター入門講座」講師）

自分史というと「自伝」（自叙伝）や「回想録」など、似た言葉があります。立派で格好いい感じがするかどうかの違いかなと思っています。

自分史が書けるというマニュアルもあって、決められた目次に沿って文章を埋めていけば、完成するのだそうです。いくら便利でも自分の人生までマニュアルを使って書く必要があるのでしょうか。自分史を書くなら、最も大切な「思い出」から取りかかってはどうでしょう。これなら書こうというエネルギーが高まります。苦しいこと、悲しいことなど、「書けないこと」は無理をせず、気持ちの整理ができてから取りかかればよいでしょう。

自分さえわかればよいのだからと、適当に書き流したものは、後で読み返したときに自分でも理解できなくなります。あの人（たち）に伝えたいと思うと、きちんとした文章にしようという気になってきます。

「二〇〇〇年四月一日」などと時期を書き入れると、記録としての価値が高まります。日にちは調べてみなければわからないなら、とりあえず「二〇〇〇年春」などと書いておきます。誕生から現在までの簡単な自分史年表をつくり、それを参照しながら書きすすめる方法もあります。写真アルバムを整理するだけでも、書くためのヒントが得られます。

注意するのは、小学生のころに書いた「遠足」の作文のスタイルにしないことです。朝起きて顔を洗ってから、遠足に行って家に帰って寝るまでを延々と書き綴るのではなく、どこに力点を入れて書くのかを考えます。

自分史は何のために書くのでしょう。答えは人それぞれです。自分史を書きたいと思った気持ちを大事にして書きすすめながら、伝えたい相手やその目的をはっきりさせていくのもよいでしょう。これまでに発行されている自伝※や評伝に目を通すと、自分にない視点も発見でき、役に立つはずです。

※ 男性女性それぞれの側面からみたこの2冊は、西村先生お薦めの書です。

『自伝の書き方』
保阪正康
（新潮選書　新潮社）

『女の一生を書く』
江刺昭子
（日本エディタースクール出版部）

挑戦！自分のこと、書いてみよう

私には2人の弟がいる。2人は年子のため母が下の弟の面倒を見ている間、私が上の弟と遊ぶようになっていた。遊びに行くときはいつも上の弟を連れて行った。

ある日、いつものように弟と2人で友達の家に遊びに行くと、友達はピアノのレッスンに行くという。きっとすぐ終わるだろうと、ついていくことにした。しかし、いつまでたっても友達の順番がまわってこない。ようやくまわってきたとき、すでに6時。5時までに帰宅する約束だった。母の怒る顔が目に浮かび、帰ることにした。家までは子どもの足で10分ほどかかる。外は真っ暗。途中から街灯が減り人通りも少なくなる。弟と手を取り合って互いに「もうすぐだよ」と言って歩いた。

すると、向こうから白と茶のセーターを着た女の人が歩いてきた。お母さんだと2人で走り寄ったら全くの別人だった。泣き出しそうになったが、弟の前で、弟もがんばっているのに泣けないと我慢した。

家にたどり着いたとき、弟は母に駆け寄り、私は母に怒られた。素直に行動できる弟がうらやましかったし、自分一人が怒られることに不満も感じた。しかし、このような出来事の積み重ねで、姉としての自覚と責任感が身についていったのだろう。

曽我部一美

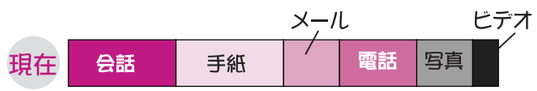
西村先生
「いつ・どこで」の部分が入るともっとよくなるね。

曽我部さん
今回書いてみて原体験が今につながっていると感じました。「自分の人生までマニュアルを使って書く必要はないのでは」という先生の言葉が印象的でした。

まなこ53号　アンケートから

『まなこ』のアンケートはレポーター（毎年3月に募集）、アンケート協力員にお願いしています。
アンケートに協力いただける方を随時募集中です（アンケート協力はボランティアです）。詳しくは市民活動センターまで。

Q1 「わたし」をつたえる手段をもっていますか？また、どの手段を使いたいですか？



（その他）・ホームページ　・自分の作品　・態度
・テレパシー（夢です）　・物語を書く

（その他）・絵　・自分自身の行動や生き方を見せる
・自分の作品　・家計簿と共に書くメモ
・会話　・仕事　・ホームページ
・小学生のときに埋めたタイムカプセル

Q2 今までにいちばん嬉しかった「つたえられたこと」はなんですか？

- 感情の表現が下手なので、うまく伝わらないことが多いが心情を理解してもらえたとき ……76歳男
- 「あなたを大切に思っています」 ……41歳女
- 家族（子ども）の嬉しがったこと（入学、合格発表など） ……33歳女、他多数
- 子どもや孫が生まれたこと（できたこと） ……64歳女、47歳女、60歳男
- 自分のやっていることが認められたとき ……39歳女、40歳女
- 父が亡くなる前に家族を集め、一人一人に「ありがとう」と言ってくれたこと ……36歳女

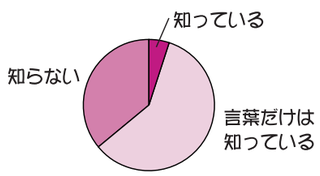
Q3 どんなときに、「想いがつたわらない」、「気持ちがすれ違った」、「つたえ方を失敗して後悔した」と思いましたか？

- 夫には何でもわかってもらえると思い、ついストレートに伝えてしまう ……36歳女
- 子育てについて、夫婦間で気持ちが伝わらず、ただ感情的だと思われがち ……33歳女
- 話をした相手がまるで違ったことを話し始めたのを聞いたとき ……72歳女
- 友達の相談をうまく聞いてあげられなくて、言いたくないところまで深追いしてしまったこと　15歳女
- 叱咤激励したり、何気なく言った言葉に相手が気分を害したとき ……40代女
- タイミングを逃したとき ……42歳男
- 言葉が足りないとき ……47歳女

Q4 本当に大切なことをつたえたいときは、どんな工夫をしますか。

- きちんと考え整理してから伝えるようにしている　…33歳女
- 自筆の手紙。どんな思いでも言葉を選んで手紙に書く ……30代女、36歳女、50代女
- 目は口ほどにものを言い ……42歳男
- 直接会って、心をこめて話す ……40代女、39歳女、42歳女、38歳女
- 自分が思っていることをはっきり言う。嘘をつかない ……40歳女

Q5 最近、判断能力のあるうちに自分の老後の過ごし方を代理人に伝えておく「任意後見制度」についての関心が高まっています。あなたは「任意後見制度」※を知っていますか？



※ 6ページの知っていますか？「任意後見制度」をお読みください。

＊市民活動センター　男女共同参画担当では＊

■「ライター入門講座」

楽しく文章を書いてみませんか。読んでもらう相手を考え、伝わる文章が書けたら、書くことは苦手から楽しみに。

2月9日～3月1日（全月曜日4回）10:00～12:00
むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
講師：西村良平（日本エディタースクール講師）
募集：20名

■ 男女共同参画セミナー
「いつまでも若々しく健康に
女性外来・女性医療を知っていますか」

女性の性差に着目する医療が今、注目されています。いつまでも健康に若々しく生きていくためには、正しい理解が必要です。

2月5日（木）10:30～12:30
むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
講師：対馬ルリ子
（ウィミンズ・ウェルネス銀座クリニック医師）
定員：25名

※詳しくは市報をご覧ください。

企画政策室市民活動センター男女共同参画担当
TEL　0422（60）1869
URL　http://www.city.musashino.tokyo.jp/

知っていますか

「任意後見制度」???

年をとるほど物事への判断力は衰えるものだ。病気や老人性痴呆になれば預貯金の出し入れなど日常の用事を当人だけで処理できないこともある。それでも住み慣れた環境で暮らし、自分の財産を使って、自分の望む暮らしをしたいーー切実な願いを今から伝えておく方法はあるだろうか。

武蔵野市福祉公社を訪ね、権利擁護事業特別顧問を務める、中山二基子（ふきこ）弁護士に伺った。

弁護士の中山二基子さん

夫婦・親子・相続・高齢者の財産管理・成年後見制度等を専門としています。

「任意後見制度」とは何ですか？

昔と違い、子どもが老親を生涯面倒見るのは困難ですし、離婚等で一人で老後を過ごす方も、男女ともに増えました。今は元気でも、急に心身が不自由になれば親族に予想外の負担をかけることも。誰とどんな関係でどこで暮らすか、心身が衰えたらどうするかを決めておくことが必要です。介護保険だけで極力賄うか、蓄えも加味するかなど経済面でもしっかり考え、周囲の理解と協力を得たいものです。

そこで平成12年、介護保険施行と同時にそれまでの後見制度が新しくなりました。大きな特徴が「任意後見制度」が加わったことで「物事を判断できない状態になっても介護の手配をしてくれたり、本人のために財産管理をしてくれたりする人＝任意後見人」を、元気なうちから自らの意志で選んでおけます。

利用者は多いのですか？

平成14年度だけでも全国で千八百件の利用実績でした。いずれ息子夫婦と同居したいと考える団塊世代の女性は1割未満にすぎません。嫁姑問題なども絡めて模索しているのでしょう。

手続きは長くかかりますか？

いきなり手続きや契約はせず、説明に時間をかけ、相談者の不安と問題点の整理を考えます。生い立ちから暮らしぶりや考え方までお聞きし、生活や財産の状況も把握した上で後見の方法を考えます。聞き取りと相互確認を何度も経て通例、3か月～半年程で契約に至ります。契約には公正証書を用います。

任意後見以外にどんな契約で備えれば安心ですか？

定期的に状況確認する「見守り契約」、体が弱って財産管理ができないときのための「私的財産管理契約」です。

「任意後見契約」は保険のようなもので、判断力を保って最期を迎えられれば行使せずに済みます。悪質な訪問販売契約を次々に結ぶ等、不幸にも判断力の衰えが懸念されたら、後見人から申立（注1）を受けた家裁が、契約発効の時期かを判断し、任意後見監督人を選んでからスタートします。

東京弁護士会では月3万円が任意後見契約の報酬の基準（注2）です。

新・成年後見制度
- 法定後見制度*
  - 補助
  - 保佐
  - 後見
- 任意後見制度
  - 本人
  - 任意後見人（任意後見契約）
  - 任意後見監督人

*すでに判断力が衰えた成人に対して家裁が支援者を選任する制度

「家族のための老いじたくと財産管理」より

今後の課題は何ですか？

武蔵野市では、福祉公社が法人として任意後見契約を結ぶための受け皿作りを整えていますが、全国ではまだ専門の相談窓口も少なく、社会福祉協議会や公社が後見人を引受ける例も少ないのが現状です。

誰もが必要なときに後見を使える方法を今後は考えたいですね。（取材　藤井美里）

（注1）このタイミングが早すぎると、本人の権利が制限されてしまう。一時的な混乱のこともあるので、見極めるため専門医の診断も必要。

（注2）金額は契約の内容次第で変わり、見守り契約にも、任意後見発生後は後見人を監督する監督人にも、報酬がかかる。

中山さんの著書

- 家族のための老いじたくと財産管理（講談社）
- 老いじたくは「財産管理」から（文春文庫）ほか多数

中山法律事務所
〒192-0046
東京都八王子市明神町 4-1-2
ストーク八王子207号

（財）武蔵野市福祉公社
〒180-0004
武蔵野市吉祥寺本町 4-10-10
大東京信用組合ビル4F
TEL 0422（23）1165　FAX 0422（23）1164

Dare to Care

「あえてお世話をしよう」

日本ガーディアン・エンジェルス 武蔵野支部長　浅田 淳（じゅん）さん（29歳）

左が浅田さん、右が佐藤さん「ボランティア募集中。16歳以上であればどなたでも」

アメリカで誕生し、96年日本で正式発足したガーディアン・エンジェルスは、犯罪防止NPOである。2年後に武蔵野支部ができたとき、浅田さんは存在自体に興味を覚えて入会した。仕事との両立で忙しい毎日だ。

支部のメンバー25名（女性は4名）の大半は学生や仕事を持っている人たちで、吉祥寺、立川、八王子を活動の場としている。街の犯罪防止パトロールを主として、違法広告物の撤去、地域行事の警護サポートや小学校での安全セミナーなど多岐にわたる。警察の人と、事件の捜査協力のビラ配りをやることも。

「街を歩いていて、けんかの仲裁や酔った人をお世話することがある。活動の中で私たちが大切にしているのは、力によるおさえつけではなくコミュニケーション」

また、コンピュータと関わっている企業・団体と共同で「キッズインターネット安全教室」も開催した。親子で参加し、どうすれば被害者にならないかを勉強する。

「例えば架空請求や見知らぬ人からのメールを受信した場合、まず親や先生に相談すること。対処に困った親には、警察の生活安全課に相談することなどのアドバイスをしている。法の整備が遅れているネット社会で、子どもたちを取り巻く危険性は大きい」と担当した佐藤潤一さんは語る。

「ここ数年、吉祥寺の街はストリート・ミュージシャンが増えてきた」と浅田さん。

「落書きも本当に多いなと感じるけれど、日本の中ではまだまだ安全な街だと思う。その理由の一つは、対話が成り立つこと。年齢性別に関わらず、こちらの話に対してきちんと返してくれる人が多い」

ただ残念なのは、周りに対してあまりに無関心な人が多いこと。何もそれは若い人たちに限ったことではない。

「人が倒れていれば、介抱の仕方がわからなくても、警察あるいは救急車を呼びにいく。そんな自分のできることから始めてほしい」

団体のモットーはDare to Care（デェア ツー ケア）（あえてお世話をしよう）。人とたくさん関わり合う中で、「自分自身も成長できた」実感がある。

（取材　加藤和子）

赤いベレー帽と白いTシャツがトレードマーク
金・土曜日の19時からパトロール

問い合わせ
日本ガーディアン・エンジェルス本部
TEL 03（3523）5300

●取材体験記

任意後見制度は、限りなく「終わり方」を平等に近づける制度であると感じた

まなこレポーター　高野 良美（こうのよしみ）

「夫と一緒に聞きたいお話でした」と高野さん

自分と同世代の友人の親が倒れたり、亡くなったりという話をちらほら聞くようになり「そうか、自分もそういう年齢か」と漠然と思い始めた。幸い私たち夫婦の両親はどちらも今のところ元気で、結局はまた何となく日常が続いてしまう。心も体も元気なときに「老いじたく」を意識するのは難しい。

生涯をひとりで通そうが孫に囲まれようがすべての人に平等に「老い」はやってくる。でもその「終わり方」は決して平等ではないようだ。任意後見制度はそれを限りなく平等に近づける手助けになるだろう。ときには人生観や価値観を再認識したり、自分の現状を生々しく直視したりするかもしれない。取材に同行して、まじめに「老い」に直面しなければと改めて感じた。

レポーター会議から

レポーター会議風景
10月20日（月）10：00～12：00 市役所第803会議室にて

●53号について
・つたえあってこそコミュニケーション。
・言葉がつたわらないとき外国人、障害者などへつたえることは難しい。
・言葉だけでなく親から子へ、世代間や夫婦間でつたえたいことがある。
・新聞は情報をつたえるもの、『まなこ』は想いをつたえるもの。

●52号について
・「そだてる」は子育て以外にもあるのがわかった。
・アンケートの女性から、男性からというのがわかりやすく楽しかった。

●座談会『聞かせて、昔の子育ての知恵』について
・出席者のプロフィールがわかったほうがよかった。
・あせらなくていいということが学べ、参加してよかった。
・第二子出産の最中に、座談会で聞いた慈しむという言葉を実感し、生まれた娘の名に「慈」の一字を入れた。
・テンミリオンハウスが何なのか説明がほしい。
・新旧の人と地域が合わさった企画だったと思う。

●「女性と仕事の未来館」について
・取材は事前勉強をしっかりしていかないと、的を射た質問ができない。
・働くための気持ちの準備ができたときに行けば、きっかけがつかめていいと思う。

●その他
・手にとりやすく、読みやすくなった。・ページ数が少ないのがもったいない。
・テーマが抽象的でつかみどころがない。・抽象的だからこそおもしろい。

むさしのヒューマンネットワークセンター

武蔵野市境2-10-27　武蔵境市政センター2階
TEL・FAX　0422（37）3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp
URL http://www.clipcraft.or.jp/m_hnc

“子どもが育つまち”授賞式とセンター５周年記念パーティーが、11月1日に開催されました。

受賞作のマンガエッセイそのままの明るく楽しい受賞者の方はじめ、センターにご縁のあった方、これからご一緒に、の方においでいただき、KOKO会（高齢者の音楽を考える会）の歌や受付スタッフの手料理を楽しみながら、新たなネットワークが広がりました。次なる一歩を踏み出した当センターを、皆様どうかよろしく！

ほんの紹介　今回のテーマに関する本を、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書の中から。貸出しもＯＫ

●女たちの言葉　久保覚・選　生活クラブ生協連合「本の花束」編（青木書店）

生活クラブ生協連合発行の月刊誌「本の花束」から生まれたこの一冊。「女性たちの心を励ます魅力ある言葉を紹介したい」との企画からスタートし、現在も連載中です。女性が書くこと、語ること、自由に生きることが困難な状況で、紡ぎ出し語らずにはいられなかった言葉たち。こんなにも懸命に生きてきたのかと心打たれます。

●暮らし発・いのち発　未来のページは「私」が創る　馬場利子（地湧社）

お腹の子の「水、空気、食べ物」というメッセージを感じてしまった著者は、無添加パンの共同購入、農薬空中散布阻止、チェルノブイリ・反原発と、いのちを守る活動を日々のくらしの中で展開していく。あきらめず、絶望せず、できることを続けよう。まず、伝えよう。知ることからしか始まらない。一歩踏み出す勇気をもらえる本書です。

編集後記

★実家に遊びに行った子どもが「みそ汁がおかあさんと同じ味だった」と言う。いつの日か孫が来て「同じ味のみそ汁」と言ってもらえるだろうか。伝え続けたいもの。おふくろの味。（尾花雅子）

★安全という言葉が日ましに重みを増してくる中、ガーディアン・エンジェルスの存在はとても頼もしい。武蔵野支部のメンバーは、ほとんどの方が市外にお住まいだと聞いてびっくり。そして感謝！（加藤和子）

★昔の映画・TVのリメイクが多い。CGが駆使され、旬のタレントでも話題だ。主題歌や決めぜりふが懐かしく、照れくさくもある。そして思う、伝えたい事は時代を超え共通なのかなと。（藤井美里）

★毎日出歩いている私に「たまには早く寝るんだよ」と娘。私が疲れているってこと、つたわっているんだね。もっと違うことを伝えたいんだけど…、それはこれからじっくりね。（星　詩子）

★両立、平等、参画…普段、安易に使っている言葉の重みをひしひしと感じます。その重みに負けないように、今年（私の年ですう）も、一日一日を真摯に大切に過ごしたいと思います。（森　治美）

STAFF

レポーター	市川順子・勝野智子 加藤祐子・菊谷美恵子 高野良美・塩田直子 曽我部一美・福井貴美子 古橋　哲・松田理恵 山田マリ子・和田あやこ
取材・編集	森　治美（編集長） 尾花雅子・加藤和子 藤井美里・星　詩子

☆他にもたくさんのアンケート協力員、編集協力員に支えていただいています。

デザイン	小井戸厚子
イラスト	本田　倫
印　刷	横河グラフィックアーツ株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、各コミュニティセンター、市内の医療機関、美理容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなどに置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民活動センター男女共同参画担当まで。
2004年1月15日発行　〒180-8777　東京都武蔵野市緑町2-2-28　TEL0422（60）1869（ダイヤル・イン）
まなこは再生紙を使用しています。